

令和6年度 事業所における自己評価総括表（ドットジュニア 幕張 第1教室（放課後等デイサービス・児童発達支援））

子ども家庭庁が定める「放課後等デイサービスガイドライン」「児童発達支援ガイドライン」に基づいて、さらに強化・充実を図るべき点（事業所の強み）や、課題や改善すべき点を整理・分析しています。

この自己評価総括表をもとに、業務・サービスの資質向上や改善をしていくことを目的としています。

＜保護者アンケート調査時期：R7/6/29～R7/7/9＞ ＜職員アンケート調査及び検討時期：R7/6/29～R7/9＞

強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや 意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
・柔軟な送迎体制を整備している。 ・バス停お迎えなど、様々なパターンの送迎実績がある。	・送迎先や時間など、生活状況に合わせて柔軟に相談可能である点を丁寧に案内を実施している。 ・事前に十分な準備を行うことを仕組みとしており、イレギュラーにもスムーズに対応できるようにしている。	・定期的なドライバーの研修を実施。様々な道路状況でも送迎ができるような人員の育成体制を構築する。 ・普段使わない道も確認に行くことで、もしもの時に備えることができるようにする。
種類豊富で子どもたちが前向きに取り組めるようなプログラム展開ができています。	・1日1日違うプログラムを設定、毎月職員からアイデアを募集し、ネーミングも含めて丁寧に準備をしている。 ・通っている児童の実態に合わせたプログラム設定ができており、「楽しめる」プログラム開発が可能となっている。	・定期的にプログラムに関するアンケートを実施。児童の成長に合わせて変化するニーズにも対応できるようにしていく。
・個別療育から集団生活に向けた支援を切れ目なく実施できる。 ・小学校低学年の児童も多く、児童発達支援の方は就学後のイメージを付けやすい。	・就学準備クラスで個別または小集団の療育を実施している。 ・就学に向け、就学準備クラスとその他集団支援の併用も可能。 ・少しずつ集団生活に慣れてもらい、スムーズな就学に切れ目なく支援を行うことができている。 ・実際の交流を通じて、集団生活の具体的なイメージを持ちやすい。	・異年齢の児童同士の交流に主眼を置いたプログラム作りを行う。 ・就学準備クラスから集団へ移行する際、見学を実施できるようにする。
弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	拠点として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取り組みや 工夫が必要な点等
児童の特性把握に対して定期的な深堀ができていない。	・日次でのMTGでその日の出来事や児童の様子について振り返りをする場面はあるが、特性について深堀、共有していく機会は作ることができていない。	週次で児童の特性やその背景について職員間で話し合えるMTGを定期的に開催する形で実施していく。
送迎時刻の予定としてしている時間帯が広すぎている。	・送迎場所が遠い児童がいる影響で保護者の方にお伝えする送迎予定時刻が1時間幅になってしまっている。 ・渋滞などの道路状況を詳細に予測するだけの絶対的な経験値が足りていない。	送迎計画を作成する段階で可能な限り時間設定を細かくしていく。決めきれない場合は、事前にお伝えする仕組みを検討し、ご利用者様が準備しやすい状況を作っていく。
物品の保管場所が児童に見える状況になっている。	・収納箇所の選定や、収納グッズの使用方法について検討しきれていない。 ・児童の実態に合わせて、様々な方法を試し収納方法を検討中である。	引き続き、支援における有益性と室内のキャパシティのバランスを考えつつ、より良い収納環境を模索する。